

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

I. 学力状況調査結果の分析

【国語】

目的に応じて身近な話題を選び、集めた情報を分類・関係付けながら、相手に分かりやすく伝える力が育っています。また、文章中の言葉のつながりや情報の構造を図で整理する力も身につけてきています。一方で、文章を読み取る力にはいくつかの課題も見られました。特に、時間の流れや事柄の順序を意識しながら文章の内容を大まかに捉える力、また目的に応じて文章と図表を関連付けて必要な情報を見つけ出す力については、全国平均と比べて正答率が低い傾向がありました。

今後は、文章を読んだ後に出来事を時系列で整理する活動や、接続語に注目して文章の構造を捉える指導を通じて、流れを意識した読解力の向上を図っていきます。また、文章を読む際にはめあてを明確にし、大事だと思う語句や情報に丸や四角で印をつけるなど、情報の関連性を視覚的に捉えながら読む活動を取り入れていきます。

【算数】

図形に関する基礎的・基本的な知識や技能は身につけていますが、より深い理解を伴う知識の習得や、それを活用する力には課題が見られました。また、「10%増量」などの表現を正しく理解し、増量後の量が元の量の何倍になっているかを考える問題では、多くの児童が戸惑っている様子が見られました。これは、割合の意味や使い方を日常の言葉と結びつけて考える力が十分に育っていないことを示しています。さらに、小数のたし算において、数の大きさを比較しながら共通する単位を意識して計算する力にも課題が見られました。単なる計算ではなく、数の構造や意味を理解する力が求められる問題であり、数の感覚を育てる必要があります。

今後は、数直線や図を使って数の大きさを視覚的に捉える活動や、単位のそろえ方を意識した問題演習を通じて、数の感覚を育てていきます。また、図形の特徴や使い方を考える活動を通して理解を深めたり、「10%増量=1.1倍」のような割合の意味を買い物や料理などの実生活に置き換えて考える機会を設けたりしていきます。加えて、変化する数量の関係を表やグラフで整理して見つける練習や、「どうしてそうなるのか？」を友だちに説明する活動を通じて、理解を深めていきます。

【理科】

道具の扱いや自然現象の理解において、基礎的な技能や概念が定着している様子が見られました。一方で、実験結果をもとに他の条件での結果を予想する力や、電磁石の強さとコイルの巻き数との関係を理解する力、発芽の条件を整理して実験方法を考える力などに課題が見られました。

今後の授業では、「なぜそうなるのか」「もし条件が変わったらどうなるか」といった問いを大切にしながら、予測・理由づけ・表現する活動を充実させていきます。また、日常の現象と理科の学びを結びつけることで、子どもたちが身近な疑問に目を向け、科学的に考える力を育てていけるよう工夫してまいります。

II. 学習状況調査（児童質問紙）から

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という問いに対し、90%以上の児童が「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答しました。これは、総合的な学習の時間で行った地域の皆様との温かな関わりが、子どもたちの心に大きな影響を与えている証です。今後も、地域とともに歩む学びを大切にしながら、子どもたちの成長を支えていきます。
- ・「画像や動画、音声などを活用することで学習内容がよくわかる」と答えた児童は約90%にのぼり、ICTの効果を実感している様子がうかがえました。一方で、ICTを自分で活用し、友達と考えを共有したり、協力して学習を進めたりすることができるかと答えた児童は約半数にとどまっており、主体的な活用には課題があることが分かりました。今後は、児童が自らICTを使って学び合えるような活動の充実を図ってまいります。また、学校がある日と比べて、休日に家庭学習にまったく取り組んでいないと答えた児童が約40%にのぼりました。休日は自由な時間が多い一方で、学習習慣が途切れやすい傾向も見られます。今後は、家庭でも無理なく取り組める学習の工夫や声かけを通して、継続的な学びの習慣づくりを支援してまいります。保護者の皆様にも、ぜひご家庭での学習環境づくりにご協力いただければと思います。

